

議会運営委員会 視察報告書

令和7年1月16日（木）～17日（金）

群馬県吉岡町・埼玉県嵐山町

議会運営委員会委員長 中澤清明

1 群馬県吉岡町議会

「予算常任委員会の運用について」

従前の予算審議は総務産業委員会委員会の所管であったため文教厚生委員会の議員は参加できなかった全議員が参加できるようにするため予算決算常任委員会を設置した

その後予算決算常任委員会⇒特別委員会⇒常任委員会と変遷し現在に至っている

最初は当初予算、決算の審議のみであったが現在は補正予算、特別会計も会計も扱うようになった

委員会日程は予算決算委員会4日、総務、文教常任委員会1日で開催している

予算を伴う条例等の審査は予算委員会前に審査採決している

総務、文教常任委員会では予算に関する審議は無く、条例等の審査のみ

予算決算委員会には理事者も全日程参加している

全議員が予算審議内容を把握しており、そのうえで各常任委員会での審査が出来るようになったことが一番のメリットと考えておられるようだ。ただ従前の予算審議の形態が異なっており、当町では本議会で全体予算の説明がなされたうえで、両委員会で所管する予算審議を行っているため吉岡町で得られている成果と同様なことにはならないのでは思われる

「議会DXへの取り組みについて」

令和5年4月にタブレット配布

議案書、資料をPDF形式でタブレットに配信し活用が開始された段階

音声文字化システムは令和5年9月から試験運用開始、令和6年3月からは傍聴席に字幕表示モニター設置

ペーパーレス化については広報委員会では紙資料削減に取り組み、7割の削減を実現

DX全体については環境整備が済んでこれから本格的に取り組む段階

「その他」

2 埼玉県嵐山町議会

「予算・決算特別委員会の運用について」

予算決算については平成18年9月定例会から特別委員会で審議するようになった

それまでは本会議で審議していた

本会議方式では効率性が悪く、統一性に欠け、時間を掛けすぎていたとのことである

予算決算特別委員会の質疑は事前通告制で質疑は3回まで

同じ質問の場合期数の少ない議員から質問する

予算決算特別委員会には理事者出席

予算決算特別委員会は当初予算と決算審査のみで補正予算の審議は本会議方式で行っている

予算決算特別委員会としたことでのデメリットは特にない

「議会DXの取り組みについて」

現在議員へのタブレット貸与はなく、委員会のみ個人タブレットの持ち込み可

ペーパーレス化については議会運営運営委員会で検討中

「町への提言書提出について」

議員間の自由討議を活発化させ、決算審査の結果を次年度予算に反映させる取組みを試行

テーマや提言内容については全会一致が原則のため政策提言まで行くのは中々困難

一致しないものについては討議の中で出された個々意見をまとめて報告している

「その他」

3 全体を通じて

予算決算の委員会を設置して審査している状況の研修視察が第一の目的であったが、議会風土の違いに驚かされた。予算決算を総務、福祉用委員会に分割して付託審査⇒新たに予算決算委員会を設置して全議員で審査に変更したことを想定していたが、吉岡町ではそれまで予算審議が総務産業委員会の所管で、文教厚生委員会の議員が予算審議に参加できないという背景のもとに予算決算常任委員会が設置されていた。嵐山町では予算決算の審議が本会議方式でされていたのを予算特別委員会を設置して行うようにしていた。当町の両委員会に付託しての審査と比べて審議が深まるかという、むしろ予算を半分に分けそれぞれが3日間を掛けている今の状況の方が濃いとも言えるのではないかと感じた

また実施する場合には通常の常任委員会の存在意義、委員会審査日程の調整、理事者出席の調整、委員会室確保などを検討する必要があると感じた

DXについてはどこも始めたところで推進に悩んでいる様子が見て取れた。しかしこの2～3年のうちには大きく進むものと改めて感じ、積極的取り組みの重要性を再認識した